

令和3年7月 文書質問及び回答

1 質問者 春日隆司議員

2 質問事項 一の橋バイオビレッジについて

質問の内容・要旨	回答
一の橋バイオビレッジ構想は、日本の集落対策モデルとして熱いまなざしを向けられているが、時の経過とともに実態は大きく変貌を遂げてきており、地域住民の不安も増してきている。そこで、次の点についてお尋ねします。 ① 住民センターは、警察派出所の統廃合に伴い、管理人が常駐し、警察官立寄所機能と合わせ、住民の不安解消等を図ってきたが、現在、管理人は常駐していない。基本的な方針が変更されたのか。住民理解を得ているか。 ② NPO 地域おこし協力隊は、住民・公区との連携を図る中で、町主導で設立した団体であり、駅カフェ運営や除雪作業など、集落対策に取り組んできている。運営や業務へ補助金が支給されていることから、 ・ 駅カフェの運営・利用改善が必要でないか。 ・ 集住化住宅の非常口除雪はどうなっているか。 ③ 王子医療植物研究室は、下川町の積極的でスピーディな誘致対応に可能性を感じ進出し、意識を高く持つパートナーとして期待されている。経緯を踏まえ、積極的な関りを持ってきたか、また今後の対応方針は。 ④ これらに関して、地域住民への丁寧な説明と住民とともに築く集落運営活動が必要でないか。 ⑤ NPO 地域おこし協力隊は特用林産物栽培研究所の業務を受託しているが、業務の指示命令等について、実質的には町直営時と何ら変わっていないのではないかと。以上、お尋ねいたします。	① 住民センターの管理については、NPO法人地域おこし協力隊に委託していますが、前管理人は、一身上の都合により、令和3年3月末で退職しました。後任については、NPO法人地域おこし協力隊の事業と関連するため連携して検討しています。 下川駐在所にパトロールの回数を増やしてほしいと要望し、現在は増やしてもらっています。一の橋地区住民には、公区総会にて、状況を説明しており、「行政に関する相談業務等は役場のほか駅カフェ、地域担当職員を窓口として」と周知しました。 ② 駅カフェの運営・利用改善については、これまで地域食堂の役割を担っていましたが、住民の年齢構成の変化や運営を担ってきた地域おこし協力隊員の退任、採算性の確保など、運営については、大変厳しい状況です。管理運営は NPO 法人地域おこし協力隊が主体となっており、今後の運営方法を協議していきたいと考えています。 集住化住宅の主要出入口の除雪については、高齢の入居者が多かったことから、町が NPO 法人地域おこし協力隊へ委託して行っています。また、その他の出入口（非常口）については、一部、入居者が自ら除雪支援サービスを活用してNPO法人地域おこし協力隊へ除雪依頼している箇所もあります。現在の入居者の年齢構成が大きく変化してきており、今後、出入口、非常口の除雪については、公区、入居者等と相談し、対応を検討して参ります。 ③ 王子医療植物研究室については、関係課を中心に、引き続き、積極的に連携していきます。

④ 一の橋公区の総会等で説明等を行います。

⑤ 特用林産物栽培研究所の業務委託については、採用・人事管理・業務命令等において NPO 法人地域おこし協力隊が主体的に担っていると同時に、栽培技術についてもノウハウの蓄積がされつつあると考えています。しかしながら、経験不足の点もあることから、これまでの経験や関連企業等とのつながりにおいては、従前どおり町が関わっているところです。